

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	良く なっている	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年同月比98%であったが、外商売上が伸びたため、トータルでは前年並みとなった。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒波が押し寄せ、冬物の販売が好調に推移し、セールに入っている店も好調であった。また、クリスマス商戦も、3連休はかなり人出が多く、売上も増え、盛り上がった。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・気温の低下に伴って、冬物衣料の販売量が伸びている。総選挙による悪影響も限られた飲食店のみで、街全体としては週末ごとに多くの人出があり、にぎわった。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・総選挙が終わり、消費者も景気が良くなるのではないかという期待を持っており、買物をしてくれるような状況である。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・ボーナス商戦やクリスマス需要で販売量は増加している。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・11月末から12月にかけての忘年会シーズンで、売上が昨年より大幅に増加した。これは円安や株高などのように、期待感の表れではないかと考えている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・2、3か月前と比べて、景気がやや良くなっているという乗客の声がある一方、忘年会がなくなった、あるいは規模が小さくなったという声も多い。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・12月は賞金王や賞金女王という大きなレースがあり、売上は前月比24.8%増、3か月前比7.6%増となったものの、前年比では5.6%の減となった。売上増加に向かっているかどうかは、もう少し様子を見る必要がある。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・12月なので来客数は多いが、例年と比べると良いとはいえない。
	変わらない	商店街（代表者）	競争相手の様子	・政権が代わって新たな動きがあるのか、長い政局の混迷から抜け出せるかは、まだ確証が持てない。
		百貨店（企画担当）	お客様の様子	・冷え込みにより婦人服等の売上は伸びているが、ギフトが非常に悪く、全体としてはあまり良くない状況である。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・年明けのセールを待つ顧客が多く、繊維部門は買い控えているようだ。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数と販売量の減少を、営業努力による販売単価のアップで補っている状況である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・3か月前と比べて状況は変わらず、来客数は確保できて、売上は増えていない。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・既存店の来客数は、競争力のある大型店では好調に推移しているが、小型店では前年割れが続いている。店舗経営の効率化を考えると、小型店に人員を割くことはリスクになっている。
スーパー（財務担当）		販売量の動き	・売上高、来客数ともほぼ昨年並みで推移しており、大きな変化はない。	
コンビニ（店長）		お客様の様子	・無駄なものは買わないが、欲しいものは少し高くても買う。消費者はお金がないわけではなく、節約をしているだけである。	
衣料品専門店（経営者）		単価の動き	・12月は寒い日が続き、前半こそ売上が増えたが、後半は買い控えているのか、ほぼ昨年並みになっている。	
タクシー運転手		来客数の動き	・忘年会シーズンにもかかわらず、動きが悪かった。週末の人出は多かったが、乗車されても距離が短く、売上は伸びず、昨年12月と比べて悪かった。	
通信会社（営業担当）		販売量の動き	・スマートフォンへの買換えと合わせて、タブレット端末を中心とした2台目の需要が増加している。	
通信会社（企画）		お客様の様子	・高額商品の引き合いは、大きくは変わっていない。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・年末の繁忙期であったのに、来客数は例年よりも若干少なかった。		
設計事務所（職員）	競争相手の様子	・下半期は、毎年のものであるが、年度末までフル操業状態となる。今年度も前年よりやや下回っているものの、受注量は確保している。		
やや悪く なっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・12月の夜の繁華街は、最近では最も少ない人出となった。休業している店も多く、売行きも悪かった。年末のいつもの活気がない。	

	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・お歳暮の受注件数は、法人は例年並みであるが、個人の受注件数が減っている。飲食店の忘年会の件数も減っている。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・年々先細っているお歳暮商戦であるが、今年も同様であった。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・例年、忘年会シーズンは酒類が好調であるが、今年は少ない。単価が安い店へ客が流れている。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・お歳暮用ギフトやクリスマス商戦における高額ブランド品の販売が低迷している。
	スーパー（統括担当）	単価の動き	・客は食品を買うとき、出来る限り少ない量で無駄なくということを気にしている。
	コンビニ（総務）	来客数の動き	・天候や気温も影響していると思われるが、来店客数の前年割れが前月よりも大きくなっている。
	衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・前年に比べ来客数が少なく、売上も5%以上下回っている。来街者数も少なく、年明けからのセール待ちによる購買意欲の低下を感じる。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金終了の反動はまだしばらく続きそうである。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金終了後の販売量は、前年比60%程度で推移している。年度末に向けて販売努力は強力に進めているが、先行き不透明である。
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金の終了が影響し、12月は受注量、販売量とも前年割れになっている。賞与が出たら車を買うという時代は終わったと感じる。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・10月以降、来店客数が激減している。販促活動に注力しているが、販売台数は伸びない。主力車種の大型マイナーチェンジにより、来店客数は少しずつ増えているが、まだ受注には結び付いていない。
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・総選挙の影響もあり、忘年会が減った。選挙終了後に人の動きが活発になると期待したが、来客数は少なく、客単価も下がり、景気は底を打っていないと感じる。
	旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・総選挙の影響から、旅行の申込が減少傾向であった。年末年始の申込は、国内旅行は前年並みであるが、海外旅行は円安の影響もあって少ない。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・季節要因を加味しても12月は最悪の月となった。週末の来場者が減少しており、昨年と比較しても大幅に減っている。予約状況も、昨年と比べて非常に悪い。
	悪くなっている		
企業動向関連	良くなっている	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・コスト的には非常に厳しいが、消費税率引上げの影響から受注量は上昇している。12月に入って、為替も円安になってきていることから、この状況は当分続くと思う。
(四国)	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き ・取引先の小売店の優劣が明確になってきている。取扱い商品のセンスの良い店舗や、集客力のあるエリアへの出店、改装を積極的に行っている店舗などは好調に推移している一方、年内で閉店する小売店もある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	それ以外 ・円安により海外部門の採算が好転した。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・メガソーラーの受注や問い合わせが多く、好調である。電気設備部門も良くなってきているが、機械部門は悪い状況が続いている。
変わらない	農林水産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・気温の低下により市場への流通量が減っている。販売単価は前年を上回っているものの、売行きは鈍い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	それ以外 ・円高が一服し、好転する期待感はあるが、すぐ業績に結び付く状況ではないと考えている。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が増えず、ずっと景気は悪い。
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末年始にかけては例年並みである。
	通信業（部長）	受注量や販売量の動き	・前年同期と比べて若干落ち込んでいるが、ここ3か月ではあまり変化はない。政権が交代し、経済政策に重点を置くとコメントされていることから、今後の景気回復に期待したい。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の売上低下が続いてきたが、底を打った感がある。寒さが厳しくなるとの予想から、衣料品等の販売改善が見込まれる。

		公認会計士	取引先の様子	・関与先の試算表などから、黒字企業が25%程度で、それ以外は赤字企業という状況が続いている。そのため、景気は変わっていないと考えている。
	やや悪くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は、例年に比べると非常に悪い。特需の受注があるため、売上は増加するが、それを除くと非常に悪い。
	悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・円高の影響により受注量の減少が続いている。
雇用 関連 (四国)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・求職者が減少し、企業からの求人の需要もあって、落ち着いている。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・企業の新卒採用意欲が高まっている。ここ数年、新規採用を控えていた地元中小企業が、新卒を中心に採用募集を再開しつつある。
		職業安定所（職員）	それ以外	・11月の月間有効求人倍率は0.88倍で、3か月前より0.14ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	周辺企業の様子	・年末は消費意欲が上昇するが、お歳暮の売上は昨年より若干減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人における正社員の割合は、全国平均と比べて6.5ポイント低く、求職者の希望とのミスマッチが続いている。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は6か月連続で減少している。有効求人数も減少しており、先行きについては、依然として厳しさが残っている。
民間職業紹介機関（所長）		周辺企業の様子	・売上減少を理由に、今年度の中途採用予定者数を減らす企業が増えている。また、来年度も、中途採用者を増やす企業は少ない。	
悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・歳末にもかかわらず、新聞の折込広告が例年より薄く感じられる。忘年会シーズンの街のにぎわいも盛り上がり欠ける。広告出稿は自動車販売や金融も抑制気味で、元気な業界が見当たらない。特に建設業の冷え込みがひどい。	